

救護施設等の セーフティネット機能 強化助成事業

～社会福祉法人
青森県玉葉会～



『地域共生社会の実現に向けて、地域住民の孤立防止を目的としたサロンの設立』



青森県 白鳥ホーム
主任介護支援員 田辺由希子



1. 事業の目的

- 地域の皆さんの交流拠点として、軽食や趣味活動、ボランティア活動を楽しめるスペースを提供する。
- 高齢者、障がい者等、そのご家族の皆さんが、困りごとをいつでも相談できる場を提供する。
- どのような方の相談に対しても対応できる職員を常時配置し、専門職（CSW）、他機関へ繋ぐ体制を維持する。



法人の地域貢献の 取り組み

2. 概況

- ①地域交流センターはくちょうの開設
地域にて相談受付業務を開始する
平成26年4月～
- ②生活困窮者自立相談支援東窓口支援調整
会議参加（青森県社会福祉協議会主催）
平成27年6月～
- ③赤い羽根福祉基金救護施設のサーフ
ティーネット機能強化助成事業参加
令和元年4月～



3. 赤い羽根 福祉基金1年目 の取り組み

- 職員の配置
- 地域へ浸透する為の広報活動
- 建物、設備の整備





社会福祉法人 青森県玉葉会
救護施設 白鳥ホーム

地域交流センターはくちょう

相談 受付
作品 即売 中です

BEFORE



社会福祉法人 青森県玉葉会
救護施設 白鳥ホーム

地域交流センターはくちょう

AFTER



令和元年度の主な事業

日時	内容	参加者
10月1日	リニューアルオープンセレモニー	地域活動支援センター利用者、職員 地域住民等
10月18日	調理実習	地域活動支援センター利用者、職員 地域住民等
11月1日	バザー・食事会	地域活動支援センター利用者、職員 地域住民等
11月15日	ブラジル料理教室	地域活動支援センター利用者、職員 地域住民等
12月13日	平内町精神障害者家族会つどい	地域活動支援センター利用者、職員 地域住民等
12月25日	お楽しみ会	地域活動支援センター利用者、職員 地域住民等
1月17日	相談支援	相談支援事業所職員 地域障害者等
1月23日	健康相談	地域活動支援センター利用者 平内町役場看護師
2月4日	デイケア	地域障害者 平内町役場看護師
2月21日	食事会	地域住民等

※上記の他、年間を通して平日にサロンを開所



開所式の様子



写真の掲載にあたり、ご本人の了解を得ています



祝
リニューアル
オープン



リニューアル Welcome
オープン
まちなか広場
ザロン スワニー

リニューアル Welcome
オープン
まちなか広場
ザロン スワニー

祝
福田 住建



祝
南栄崎設備工
畑井電気商会
須藤美装



新しい玄関



バザーの様子です



ブラジル料理でお食事会☺



利用者さんの作品展示販売会



成 果

4. 1年目の 成果

- 地域の子供からお年寄りまで利用者の増加。
- 病気を気にして引きこもりがちになっていた方が、相談員と話すことにより気持ちが上向き、元の職場へ復帰した事例。
- 高齢の親一人子一人世帯がサロンを利用した際に、子供が軽度の精神障害を抱えている事がわかり、施設への入所につながった事例。



課題

5. 1年目の課題

- 地域の中にはまだ多くのひとり暮らしの高齢者や、生活困窮者、障がいを持った方々など支援を必要にしている方がいます。そのような方々に対し、サービスをどのように結び付けていくのか。又、支援が必要な方には、支援を受けることによりどのように生活が変わるかを理解を得ることが必要。
- 地域との助け合い、共生社会の実現の為、ボランティアの育成が必要。



6. 2年目の 取り組み

- ギャラリーの運営
- 相談活動の充実



令和2年度の主な事業

日時	内容	参加者
8月31日 ～9月4日	白鳥ホーム利用者作品展	白鳥ホーム利用者、職員 地域住民等
9月28日 ～10月9日	地域住民写真展	白鳥ホーム利用者、職員 地域住民等
10月19日 ～11月16日	地域住民パッチワーク展	白鳥ホーム利用者、職員 地域住民等
12月14日 ～12月27日	地域住民パッチワーク展 白鳥ホーム利用者作品展	白鳥ホーム利用者、職員 地域住民等

※上記の他、年間を通して平日にサロンを開所



写真展示会





パッチワーク展





7. 2年目の 成果

成 果

- ギャラリーの運営・企画、サロンでの相談を通して、コロナ禍もあり、生活に困窮、病気で家に引きこもっている方等の姿が見受けられました。そのような方々の拠り所として、相談を受け、必要に応じて病院や、社会福祉協議会等につなぐ役割を担いました。体調の悪い地域の方の相談を受け、通院における伴走支援を行い、家族の了解のもと、入院に至ったケース。
- しあわせネットワークの支援と連携して、食糧支援のほか、プチバイトの就労支援、自家用車のガソリンの給油の現物支給の支援等の実施。
- 学校帰りの児童や、地域の障害者の居場所としての活用、地域関係団体の事務局としてコピー機の無料提供等。昨年より一層、地域の拠りどころとして認知を受け、気軽に利用してもらえる姿が見受けられました。



8. 2年目の課題

課題

- ・ コロナ禍ということで、3密になる食事会、研修会のような企画を避け、CSWによるアウトリーチ等計画したものの実行に至らず。
- ・ 地域には自身の課題を認識しないで生活している方や、認識していても相談先を悩んでいる方が多くいます。そのような方や、制度の狭間にいるような方々をどのような形で制度に繋げていくか手段の模索行う事。そのために今後も相談を丸ごと受け止めることのできる場所の提供と、職員の配置を継続。
- ・ 今後もサロンや趣味活動の場所の提供などの事業を継続。
- ・ 研修会などで育成したボランティアと事業を共同していく事。



9. 3年目 の取り組み

- 相談支援の継続
- 作品展の実施



バザー展

みなさんお気軽に
お越しください!





2021/07/27



作品展示販売会





10. 今後の活動

- 写真展、パッチワーク展、編み物展等地域の方が気軽に立ち寄れるギャラリーの企画・運営。
- サロンでの相談活動では、地域で生きづらさを感じて居る方、障害認定を受けるほどでない「グレーゾーン」の方、高齢者等地域の方々が利用しやすいよう相談員を配置し、必要に応じて行政等に連携する体制の維持。
- 新型コロナウイルスの影響は引き続き懸念されている。当法人の新型コロナウイルス感染症のマニュアルに沿って、予防を徹底し、そのうえで、地域で感染が広がりサロンが開設出来ない場合は、これまで同様、電話などの通信機器を利用して地域住民の相談への対応や情報の提供に努める。



11. 今後の 展望

- これまで定期的に相談を継続してきた地域の方々に対しては、積極的に安否確認等電話で対応します。そこから必要に応じて、個別の買い物や、通院への同行支援、又は、精神保健福祉士などの専門職や行政、しあわせネットワークなどの関係機関へ繋げ、支援が途絶えないように努めます。
- 地域共生社会の実現に向けて、地域の誰もが気軽に立ち寄ることのできる居場所づくりを目指し、食事会、研修会、ギャラリー運営等を通して、地域に対して、サロンのより一層の周知を図ります。
- 今後、育成したボランティアと共同で事業の継続を行い、いずれは、サロンの運営に地域の方々にボランティアで入っていただき、地域で運営を継続できるような施設にしていきたいと考えております。

